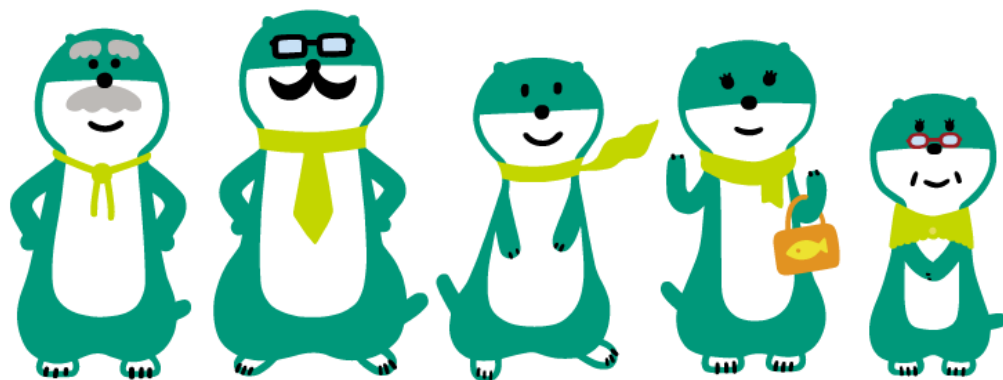


SMBCグループの経営戦略

LEAD THE VALUE



 **SMBC** 三井住友フィナンシャルグループ

2019年2月

証券コード	8316
単元株数	100株
株価*	4,045円

* 2019年1月31日現在

I. SMBCグループの特長・強み

- | | |
|-------------------|---|
| 1. 圧倒的なグループ総合力 | 3 |
| 2. 高い収益性・効率性 | 4 |
| 3. 質の高い資産・健全な資本基盤 | 5 |
| 4. 安定的に増加している配当 | 6 |

II. SMBCグループの成長戦略

- | | |
|------------------|----|
| 1. 金融機関を取り巻く環境 | 8 |
| 2. SMBCグループの収益構成 | 9 |
| 3. 個人のお客さま向けビジネス | 10 |
| ① 資産運用ニーズへの具体的取組 | 11 |
| ② 次世代店舗 | 12 |
| ③ キャッシュレス決済 | 14 |
| 4. 法人のお客さま向けビジネス | 16 |
| 5. 海外ビジネス | 17 |
| 6. コスト削減への取組 | 18 |

III. 株主還元強化への取組

- | | |
|-------------------|----|
| 1. 資本政策の基本方針 | 20 |
| (参考) | |
| 2018年5月に公表した株主還元策 | 21 |

IV. ESG（環境・社会・ガバナンス）

- | | |
|----------|----|
| 1. 環境（E） | 23 |
|----------|----|



I. SMBCグループの特長・強み

II. SMBCグループの成長戦略

III. 株主還元強化への取組

IV. ESG（環境・社会・ガバナンス）

V. ご案内

1. 圧倒的なグループ総合力

- SMBCグループは、各業界トップクラスの企業で構成されています



SMBC Group

銀行

三井住友銀行



SMBC信託銀行



リース

三井住友ファイナンス&リース

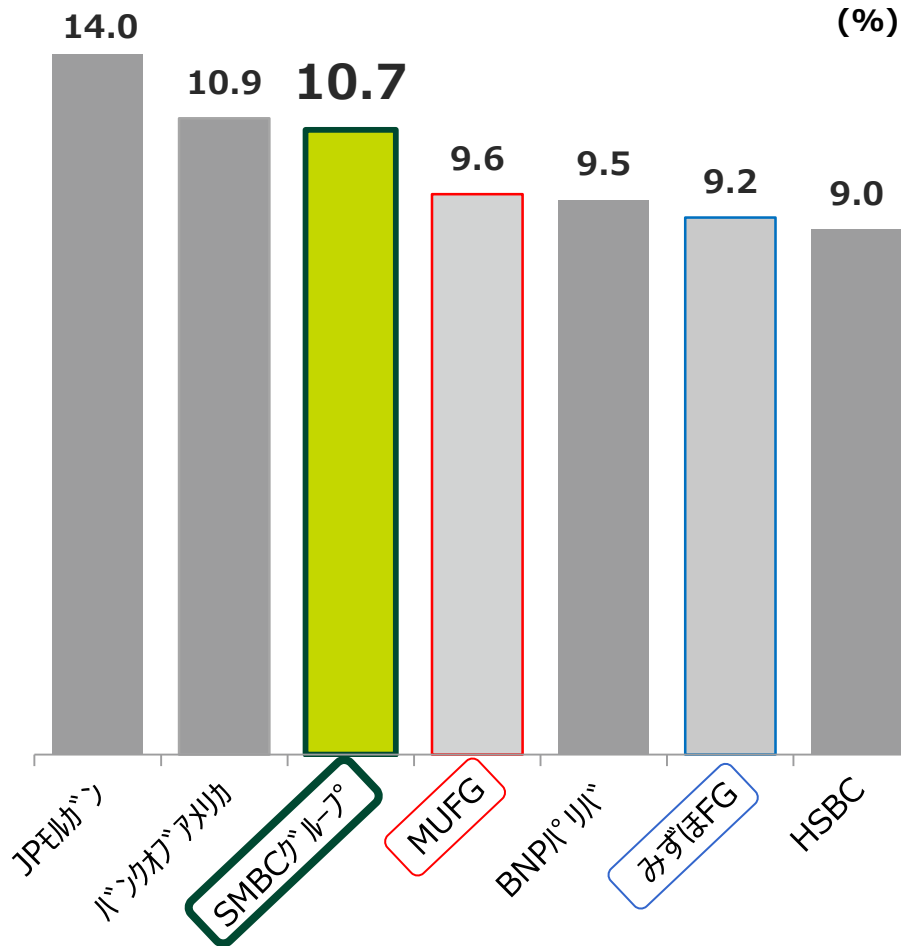


2. 高い収益性・効率性

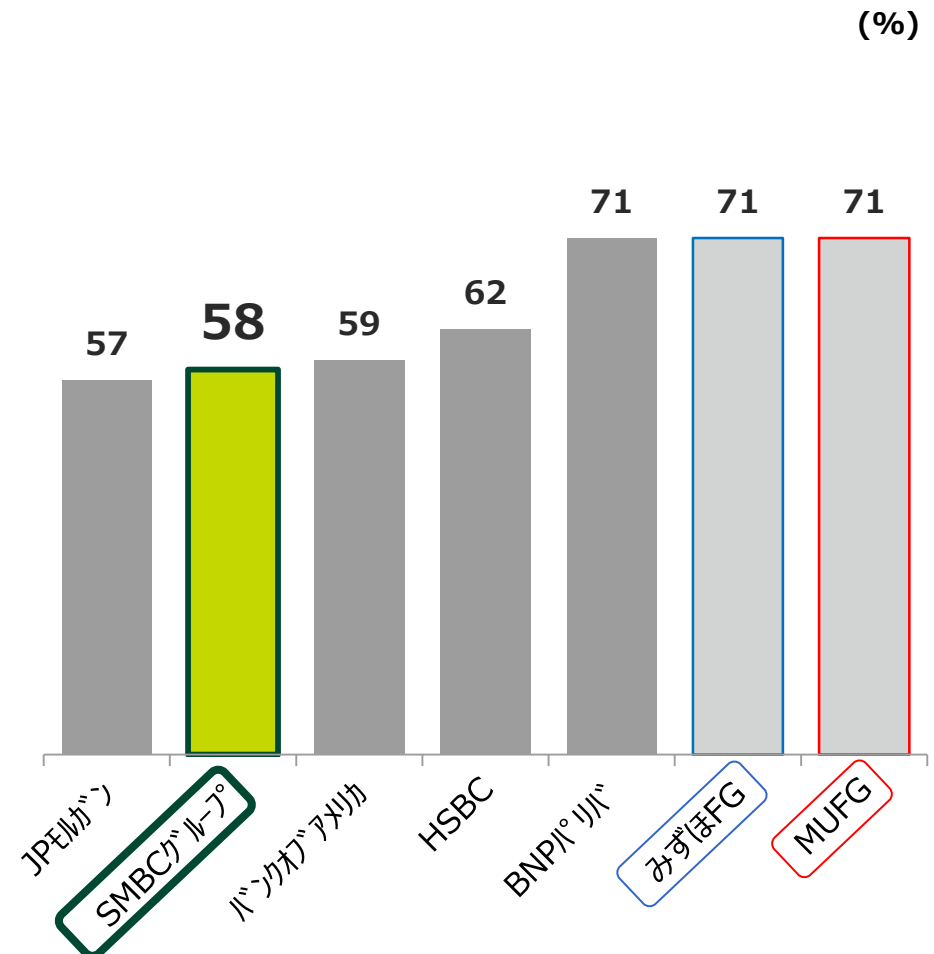
- 世界的に見ても、SMBCグループの収益性・効率性は高水準です



ROE*1



経費率*1,2

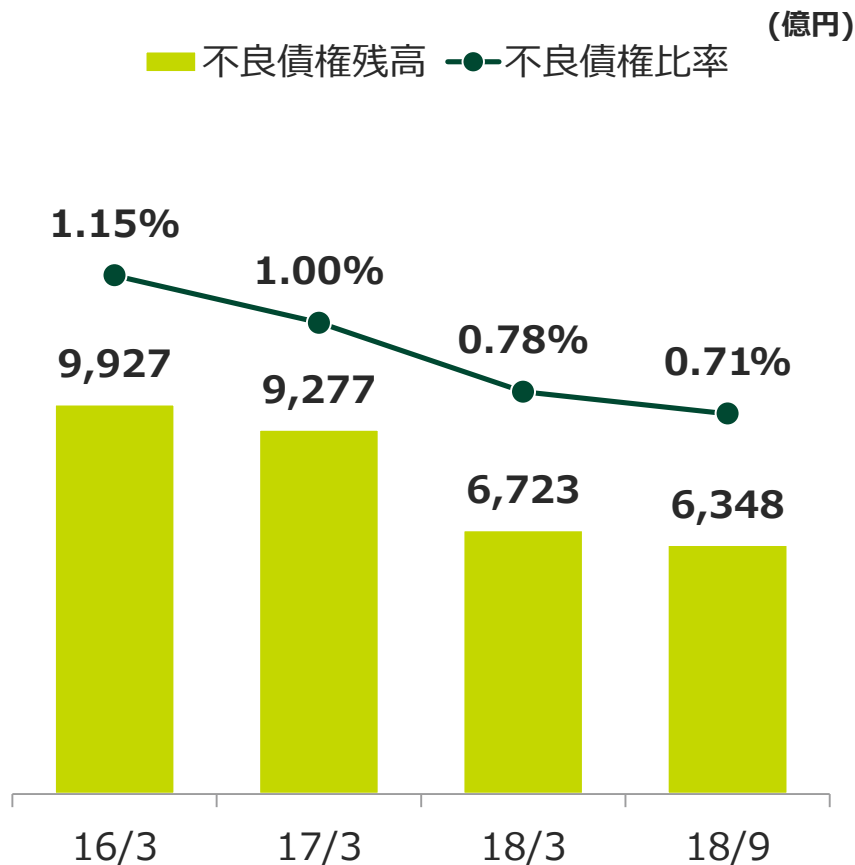


3. 質の高い資産・健全な資本基盤

- 規律を利かせた与信運営によって、低水準の不良債権比率を維持しています
- 国際的な規制強化で資本の拡充が求められる中、十分な自己資本を確保しています



不良債権残高・比率

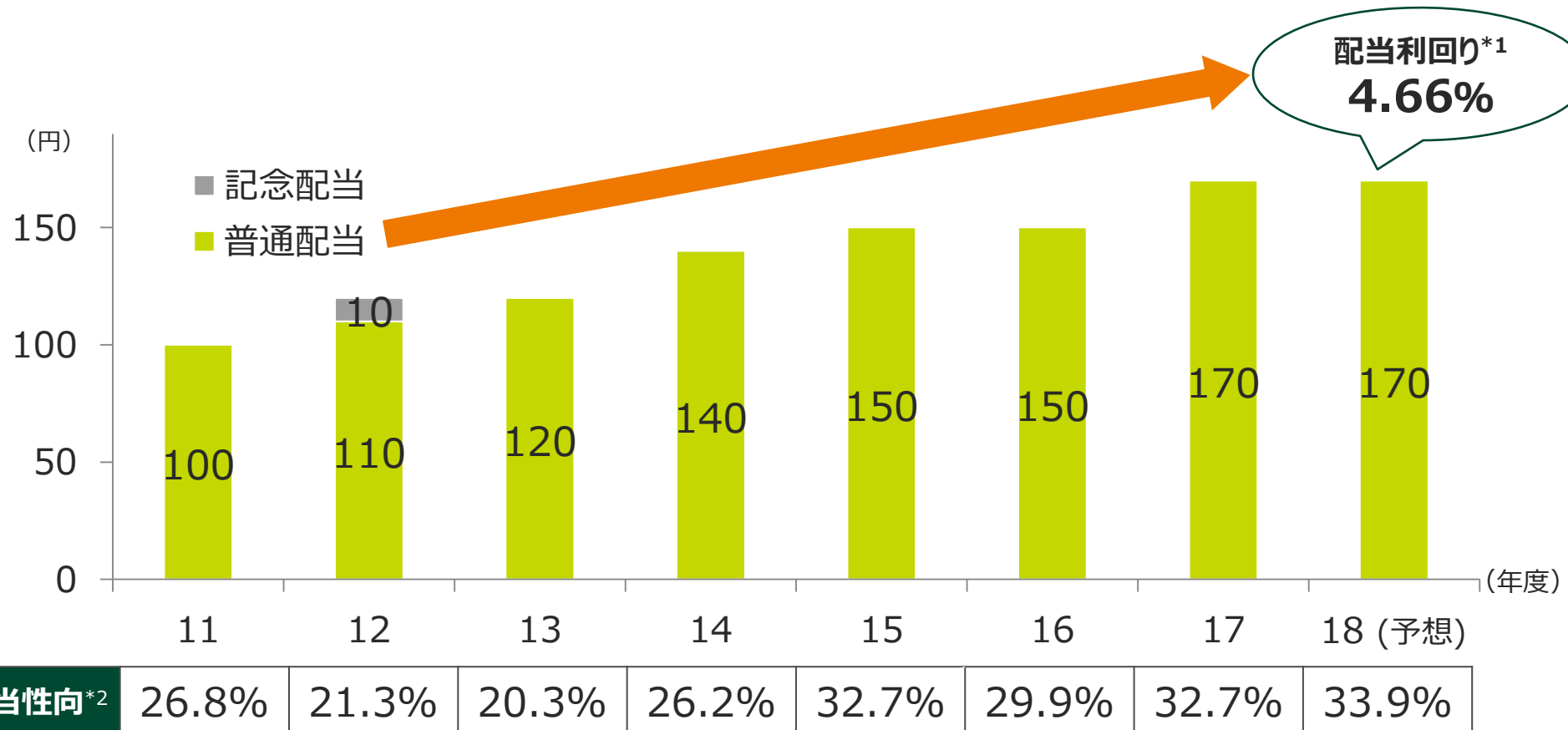


4. 安定的に増加している配当

- 配当は、累進的配当、すなわち「減配せず、配当維持もしくは増配」する方針で、2018年度の配当予想に基づく配当利回りは、4.66%（12月末現在）となっています



1株当たり配当の推移



I.

SMBCグループの特長・強み



II.

SMBCグループの成長戦略

III.

株主還元強化への取組

IV.

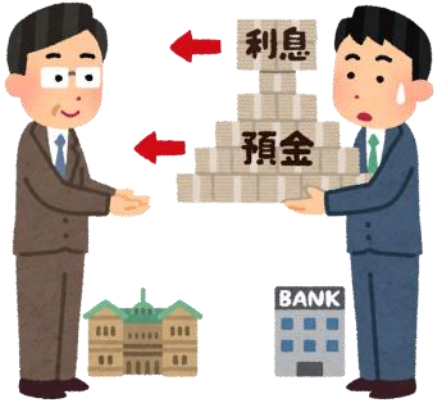
ESG（環境・社会・ガバナンス）

V.

ご案内

1. 金融機関を取り巻く環境

マイナス金利政策の継続



国際金融規制の強化



デジタル技術の進展



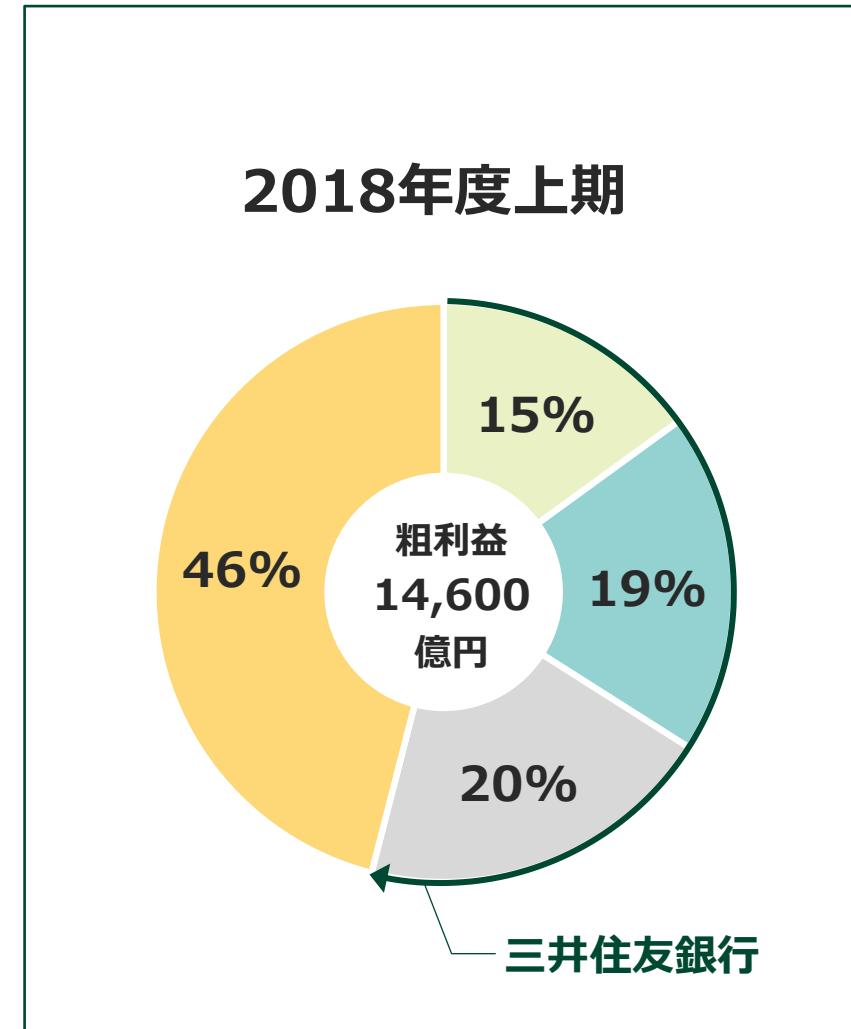
大きな構造変化を求められる局面

ビジネスモデルを進化させるチャンス

2. SMBCグループの収益構成

- グループ誕生以降、収益源の多様化を着実に実現

連結粗利益の内訳

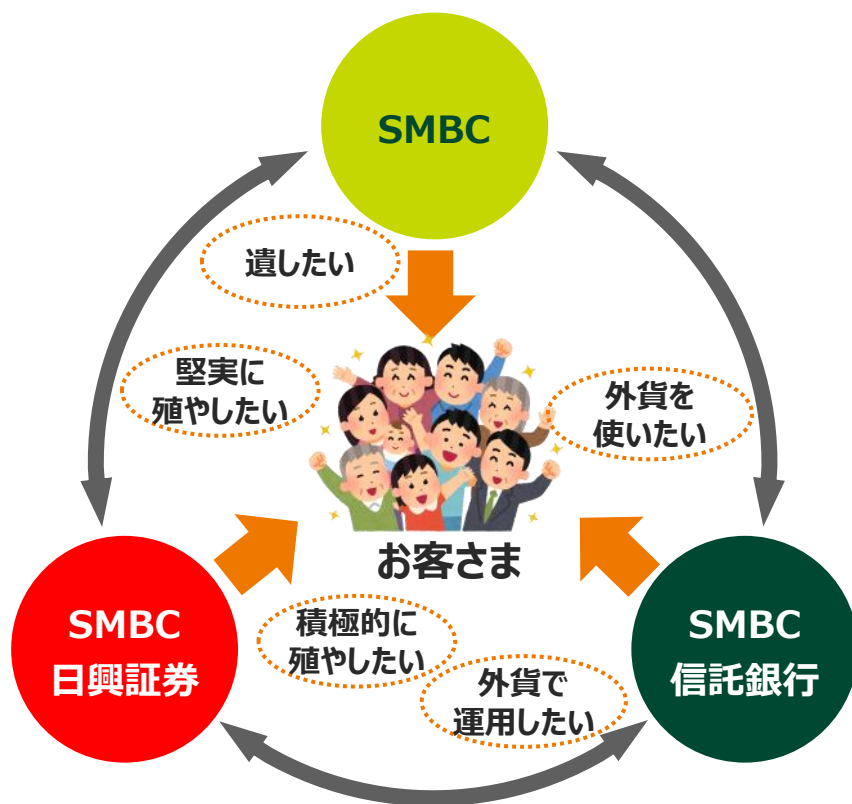


3. 個人のお客さま向けビジネス

- 業界トップクラスのグループ各社の総合力を結集し、個人のお客さまの幅広い金融ニーズに対応

資産運用ニーズ

- SMBC・SMBC日興証券・SMBC信託が連携



決済ニーズ・お借入ニーズ

- 各業界トップクラスのプレイヤーが事業を牽引

クレジットカード



消費者金融ファイナンス



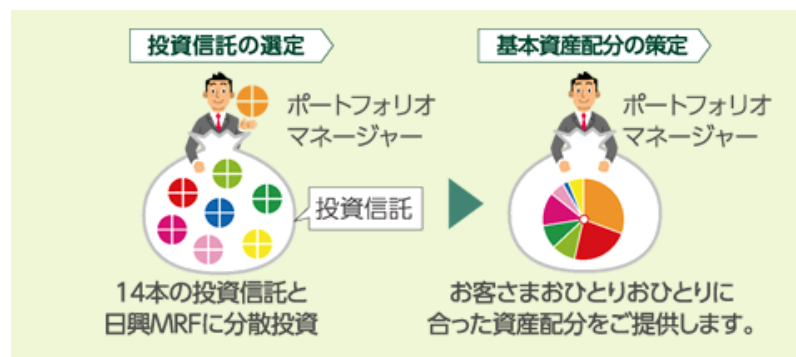
① 資産運用ニーズへの具体的取組

- 中長期分散投資を軸に、お客さま本位の資産管理型ビジネスを展開
- 「大相続時代」の到来を控え、お客さまの相続・承継ニーズへの対応力を強化

資産管理型ビジネスへの取組

- 中長期分散投資を軸とした運用提案の継続
→ 分散投資の核となる商品・サービスの強化

<ファンドラップ>



<SMBC信託銀行 PRESTIA >

✓ 多彩な外貨建商品ラインアップを提供



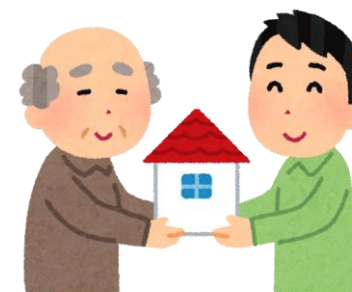
相続・承継ニーズへの対応力強化

- SMBC本体で信託業務を取扱
→ 普段のコンサルティングの延長線上で、遺産相続・資産承継もご支援
→ 相続税額の試算から遺産整理まで、ワンストップでのサポートが可能

相続税額
試算

遺言信託
資産承継
生命保険

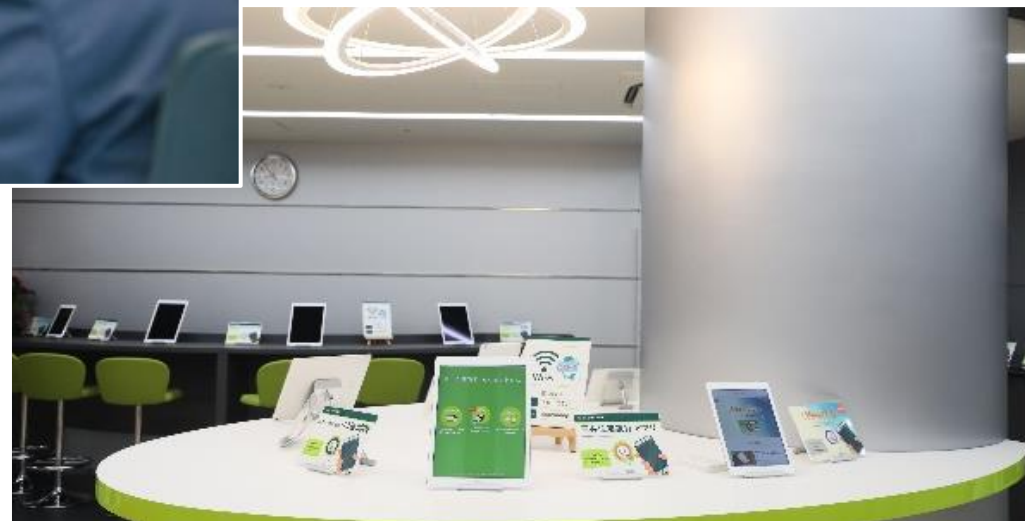
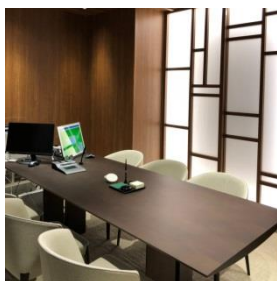
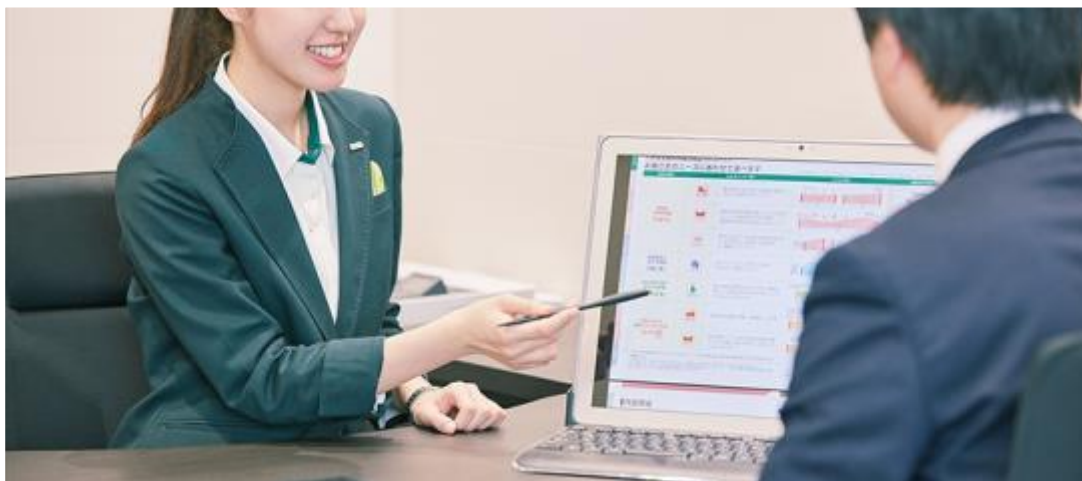
遺産整理



②次世代店舗

● コスト構造改革と同時に、運用相談スペースの拡充等、お客さまの利便性向上も実現

- 運用相談等、お客さまのためのスペースを拡充
- よりお客さまに寄り添ったコンサルティングサービスを提供



- 事務スペースを排除して店舗面積を圧縮
- 店頭のお取引をデジタル化→印鑑レス・ペーパーレス

②次世代店舗

- 各店舗の地域性・マーケットの特色に応じた店舗設計
- 改革の効果は着実に具現化

次世代店舗の例

- 個人のお客さま専用店舗

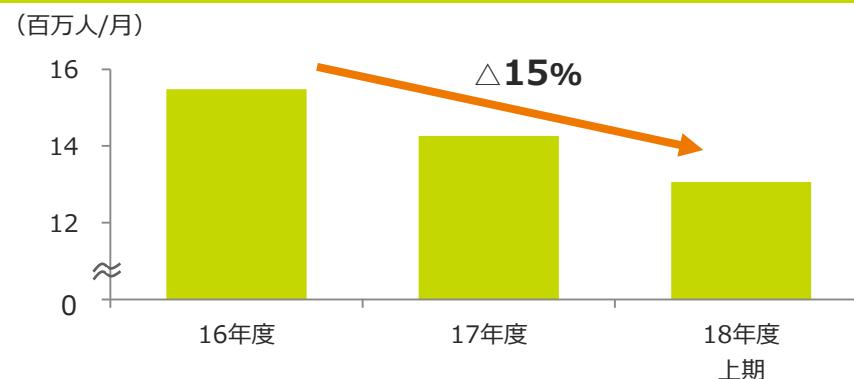


- グループ共同店舗

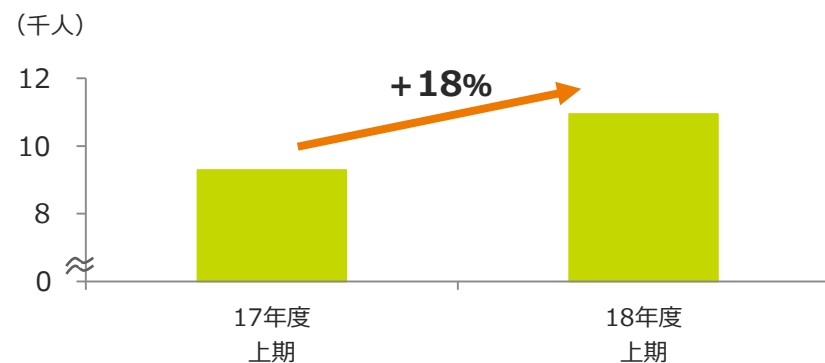


現在までの効果

ハイカウンター*1来店者数



資産運用相談での来店者数*2

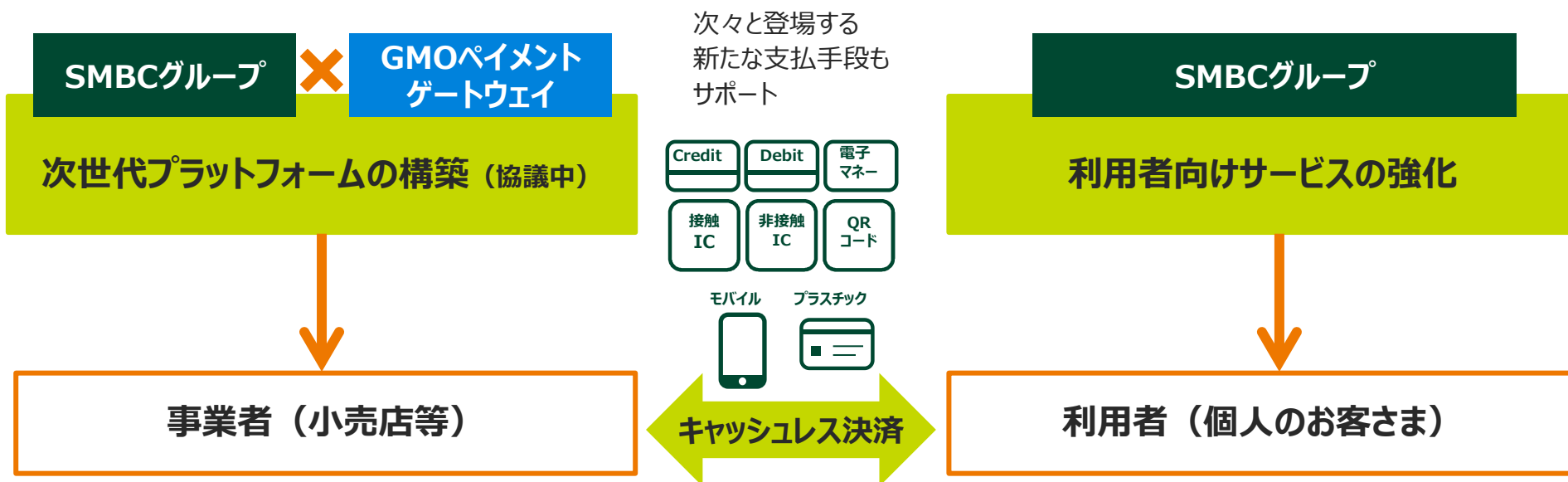


*1 振込や入出金等の事務手続を行う窓口

*2 SMBCグループ合算で預かり資産25百万円以上で、18年度第1四半期までに店舗改革を実施した108店舗において運用商品を購入した顧客

③ キャッシュレス決済

- 利用者・事業者の視点からサービスをレベルアップし、日本のキャッシュレス化を牽引



便利

いつでも・どこでも・好きな方法で
支払える

安心
安全

柔軟な利用限度額設定など
支払を自分でコントロールできる

お得

さまざまな金融サービスの利用で
グループ共通ポイントを獲得

<便利>

スマホですらりと決済

クレジット
デビット
電子マネー

財布・カードはカバンから出さなくてOK

QR / 非接触

非接触決済!

国内・海外での店頭で

もちろんインターネットショッピングも

<安心・安全>

紛失してしまった時

セルフコントロールで
らくらく設定!

簡単に
使用停止

カード使用 OFF

利用上限額

XXXX円 まで

使いすぎ
防止に

使いすぎしまった時

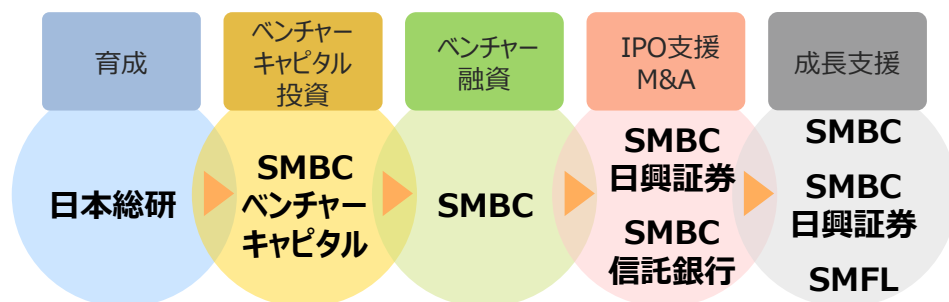
便利!

4. 法人のお客さま向けビジネス

- 中堅・中小企業マーケットにおける優位性の拡大とともに、大企業ビジネスでのプレゼンス向上を図る

中堅・中小企業マーケットでの優位性拡大

- お客さまの成長ステージに応じた多様なご提案



大企業ビジネスにおけるプレゼンス拡大

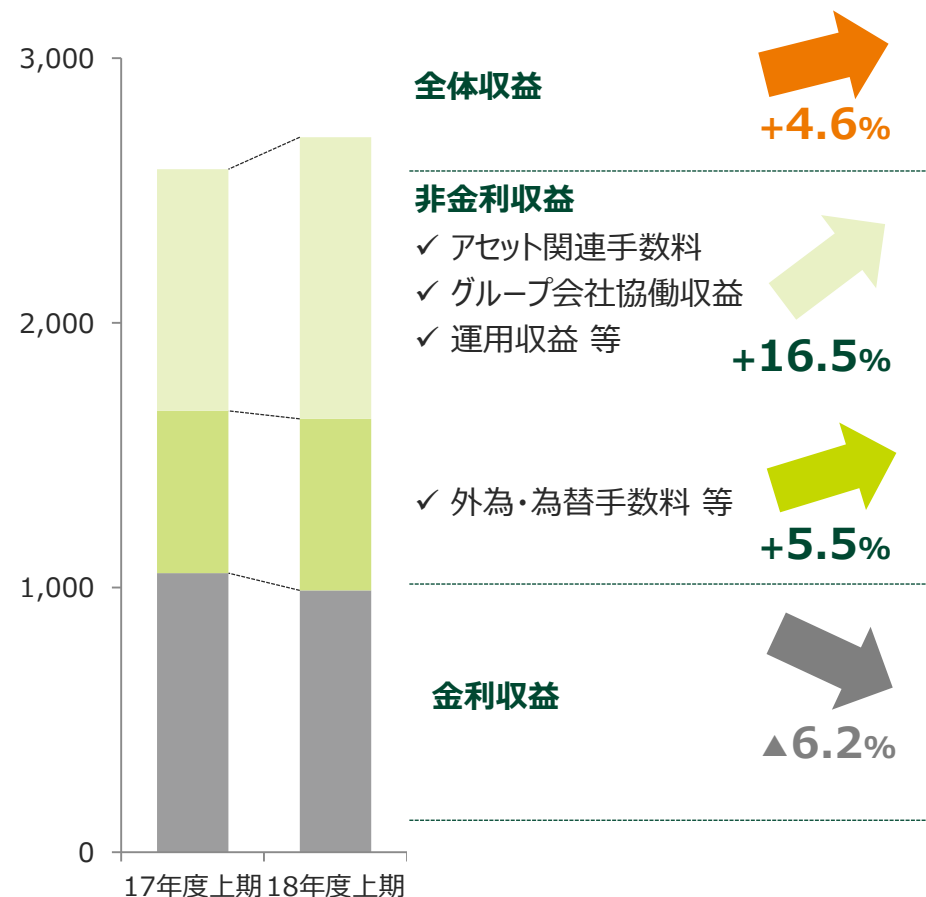
- グループベース・国内外一体となった対応力強化

<海外M&A案件の例>



収益構造の転換^{*1}

(億円)

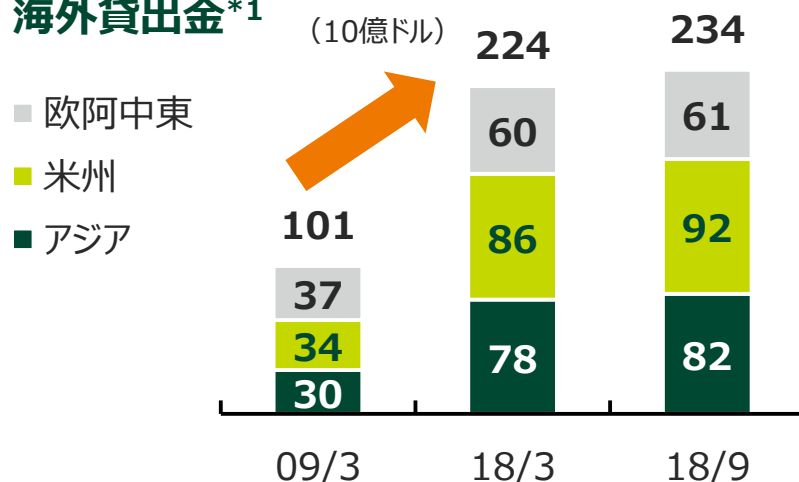


5. 海外ビジネス

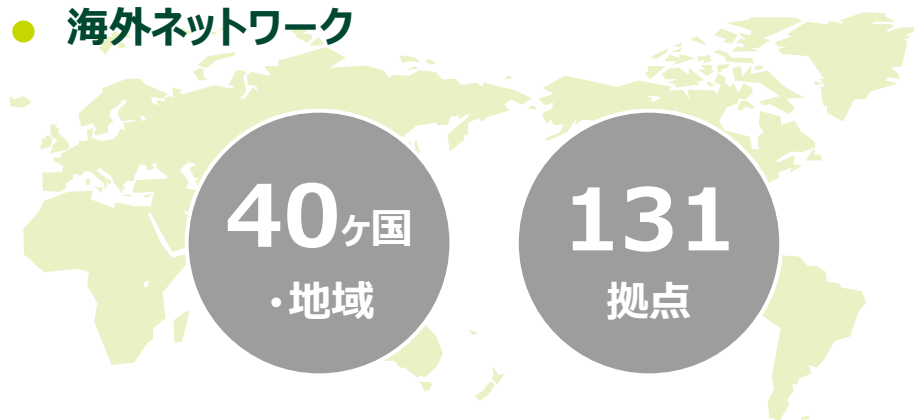
- SMBCグループの成長の牽引役として、堅調に拡大中
- 特に、強みのある高採算のプロダクトと、インドネシアをはじめとするアジアに注力

SMBCグループの成長を牽引

● 海外貸出金*1



● 海外ネットワーク



強みのあるプロダクトへのフォーカス

● グローバルでトップクラスの地位を確立

航空機リース	世界 4 位
貨車リース	北米 6 位
プロジェクトファイナンス	世界 3 位

アジア・セントリックの深化

- 出資先の地場銀行BTPNと、SMBCインドネシアとの合併により、連結子会社化を実施



6. コスト削減への取組

- 3年間で年間500億円のコスト削減を実現する目標に対し、1年半で330億円削減に目処

3カ年計画（2017～2019年度）：経費△500億円

業務改革による効率性向上

△200億円

リテール店舗改革

△200億円

グループ内事業再編

（SMBC日興証券・SMBCフレンド証券の統合）

△100億円

2018年度上期までに
目処をつけた削減額

約△330億円

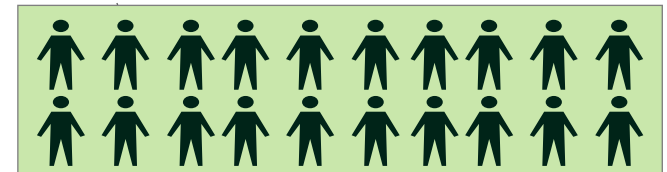
主要施策による人員面の効率化効果

△4,000人分の業務量削減（人員余力の捻出）

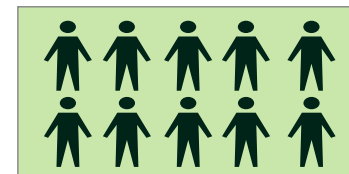
RPA*による業務の自動化を通じた効率性向上

*Robotic Process Automation（ロボティック・プロセス・オートメーション）

従来

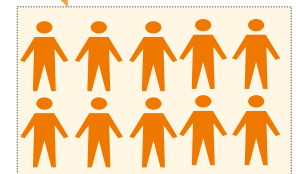


RPA
活用



- 企画業務等に
注力

定型業務の
自動化



- 付加価値の高い
領域へシフト

I. SMBCグループの特長・強み

II. SMBCグループの成長戦略



III. 株主還元強化への取組

IV. ESG（環境・社会・ガバナンス）

V. ご案内

1. 資本政策の基本方針

- 健全性確保、株主還元強化、成長投資をバランスよく実現
- 株主還元は、配当を基本とするが、健全性確保を前提に、自己株取得も機動的に実施

累進的配当政策

- 減配せず、配当維持もしくは増配を実施

配当性向40%を目指す

- 次期中期経営計画期間中を目処
(2022年度迄)

機動的な自己株取得

健全性確保

普通株式等Tier1比率目標*1：
10%程度

持続的な
株主価値の向上

当面のROE目標*2
7~8%程度

投資規準

- 戦略に合致
- シナジー後・のれん償却後
ROE*3で8%以上を展望可能
- リスクがマネジャブル

株主還元強化

成長投資

*1 バーズルⅢ最終化時ベース *2 株主資本ベース *3 規制強化を踏まえた規制リスクアセットに基づく内部管理ベース

(参考) 2018年5月に公表した株主還元策

- 配当：17年度は前期比+20円・公表予想比+10円増配の170円、18年度予想は170円
- 自己株取得：上限700億円の取得枠の設定（取得した自己株式は全て消却）

株主還元策

	17年度	前年比	18年度 目標
1株当たり配当	170円	+20円	170円
配当性向	32.7%	+2.8%	33.9%
親会社 株主純利益	7,344億円	+278億円	7,000億円
自己株取得	700億円		

(参考) 総還元性向	42.2%
---------------	-------

自己株取得

取得金額	700億円
取得株数	1,537万株（全株消却済）
取得期間	2018年5月15日～6月19日

I. SMBCグループの特長・強み

II. SMBCグループの成長戦略

III. 株主還元強化への取組



IV. **ESG（環境・社会・ガバナンス）**

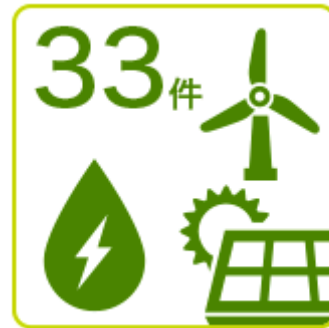
V. ご案内

1. 環境（E）

- 事業活動における環境負荷軽減とともに、金融機能を活かして経済面から地球環境保全に貢献することを目指す

環境ビジネスの推進

- 再生可能エネルギーへのプロジェクトファイナンス



- グリーンボンドの発行

調達した資金は、再生可能エネルギー・省エネルギー等の環境に配慮したプロジェクトに充当



気候変動への取組

- 気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）への賛同を表明

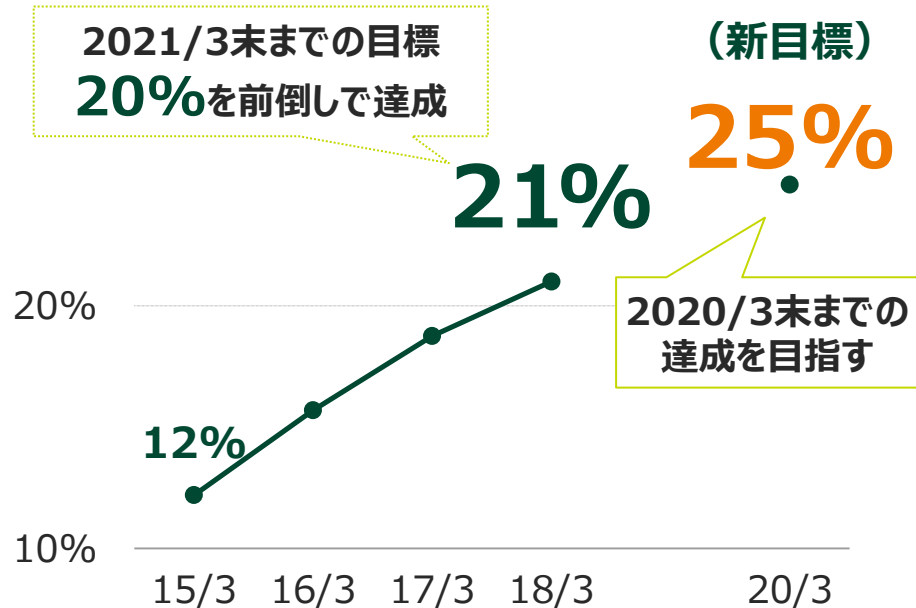


- 石炭火力発電所に対する融資方針をより厳格化

2. 社会（S）

ダイバーシティの推進

● 女性管理職比率（三井住友銀行）



● LGBTに関する取組

- 「PRIDE指標」で最高評価を取得
- 同性パートナーに関する就業規則を改定



成長産業分野への支援

● ピッチコンテスト「未来2018」

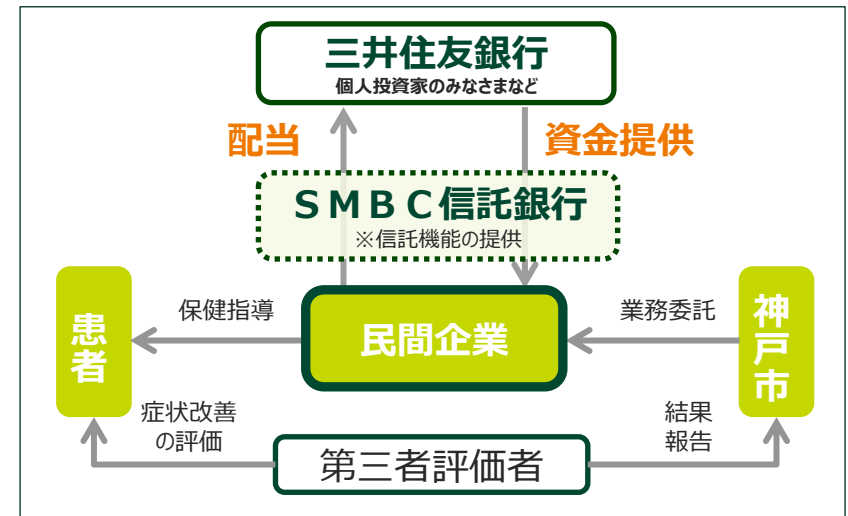
日本の成長戦略の基盤となる
先進性の高い技術や
ビジネスアイデアの
事業化を支援



● ソーシャル・インパクト・ボンドの組成

現代社会や地域コミュニティなどが抱える社会的課題を
金融面からサポート

例：神戸市と連携した「糖尿病性腎症等重症化予防プログラム」



3. ガバナンス（G）

- 多様な知見・経験を持つ7名の社外取締役による監督機能の強化



松本 正之

東海旅客鉄道株式会社
特別顧問



アーサー M. ミッチェル

米国ニューヨーク州弁護士
外国法事務弁護士



山崎 彰三

公認会計士



河野 雅治

元外交官



筒井 義信

日本生命保険相互会社
代表取締役会長



新保 克芳

弁護士



桜井 恵理子

ダウ・東レ株式会社
代表取締役会長・CEO

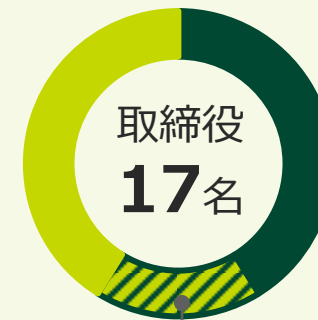
取締役会の構成

社内取締役
（執行）

7名

社内取締役
（非執行）

3名



社外取締役

7名

専門分野

経営	3名
財務・会計	1名
法曹	2名
外交	1名

3. ガバナンス（G）

- 2018年8月にSMBCグループ・グローバル・アドバイザリーミーティングを新たに設置
- 世界各地の政治・経済・ビジネスに精通した有識者をアドバイザーに選任



アンドレアス・ドンブレット氏

- ドイツ連邦銀行理事（2010-2018）
- バンク・オブ・アメリカ 欧州部門副会長（2005-2009）



セサル・V・プリシマ氏

- フィリピン共和国財務大臣（2010-2016）
- フィリピン共和国貿易産業大臣（2004-2005）



ロバート・D・ホーマッツ氏

- キッシンジャー・アソシエイツ副会長（2013-現在）
- アメリカ合衆国国務次官（2009-2013）



デイビッド・ライト卿

- バークレイズ副会長（2003-2017）
- 駐日英国大使（1996-1999）



アンドリュー・N・リバリス氏

- ダウ・デュポン会長（2017-2018）
- ザ・ダウ・ケミカル・カンパニー会長兼最高経営責任者（2006-2017）



ジョセフ・ヤム氏

- 香港行政会議メンバー（2017-現在）
- 香港金融管理局総裁（1993-2009）

4. SDGsへの取り組み

- グローバル金融グループとして、本業を通じた社会的課題の解決に注力

SDGsとは？

- Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略
- 2015年9月、国連サミットで採択された2030年までの国際目標
- 17のゴール・169のターゲットから構成され、「地球上の誰一人として取り残さない」世界の実現を目指す

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標



SMBCグループの
注力項目

Environment



7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



13 気候変動に
具体的な対策を

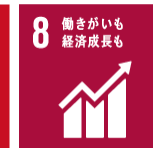
Social



1 貧困を
なくそう



4 質の高い教育を
みんなに



8 働きがいも
経済成長も



9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



11 住み続けられる
まちづくりを

Governance



5 ジェンダー平等を
実現しよう



10 人や国の不平等
をなくそう



16 平和と公正を
すべての人に

I. SMBCグループの特長・強み

II. SMBCグループの成長戦略

III. 株主還元強化への取組

IV. ESG（環境・社会・ガバナンス）



V. ご案内

1. 東京2020オリンピック・パラリンピック

- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会にゴールドパートナー（銀行）として協賛
- 多数のパラリンピックアスリートが在籍



東京2020ゴールドパートナー（銀行）

<Team SMBC グラフィック>

SMBC

SMBCグループ

パラリンピックをめざすSMBCグループ所属アスリートたち

We are Team SMBC

ひとりひとりが日本代表。

世界の舞台へ、想いをひとつに。

千船 貴
車いすバスケットボール

森田 由希子
馬術（盛装束）（F44/F40/F42）

村山 遼
バドミントン

岡本 雄
馬術（盛装束）（T44/F42）

植井 孝典
車いすバスケットボール

安部 早希
ゴールボール

上野剛彦 寛和
馬術（盛装束）（T44/F42）

三津 祐
アーチェリー（混合）

栗松 聖矢
マラソン（T44/F42）

三井住友銀行は、東京2020パラリンピックを応援します。

三井住友銀行

2. 当社のウェブサイト

<https://www.smfg.co.jp/>

①「株主・投資家の皆さまへ」をクリック

②「決算関連情報・IR資料室」をクリック

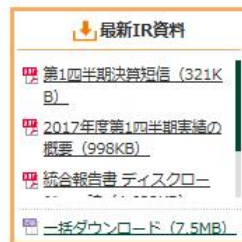


株主・投資家の皆さまへ **決算関連情報・IR資料室**

最新の決算資料・IR資料はこちら

印刷用ページへ

▶ 決算関連資料 ▶ IRイベント・プレゼンテーション ▶ 個人投資家向け説明会 ▶ 統合報告書・ディスクロージャー誌 ▶ 有価証券報告書 ▶ 株主総会関連資料 ▶ パーゼルの関連資料 株式・社債情報 株価情報 IRカレンダー よくあるご質問 電子公告 IR関連新着情報一覧 ディスクロージャー・ポリシー IRサイトマップ	▶ 決算関連資料 決算短信、記者発表資料、投資家説明会資料、投資家説明会動画配信などを、年度別に一覧形式でまとめています。	▶ IRイベント・プレゼンテーション IRイベントやIRプレゼンテーション資料などを、年度別に一覧形式でまとめています。	▶ 個人投資家向け説明会 個人投資家向け会社説明会のプレゼンテーション資料や動画配信を掲載しています。
▶ 統合報告書・ディスクロージャー誌 銀行法の規定に基づき、当社の業務内容や財務内容について説明した統合報告書・ディスクロージャー誌を掲載しています。	▶ 有価証券報告書 有価証券報告書、半期報告書、四半期報告書を掲載しています。	本日の資料はこちらに掲載されます ▶ 株主総会関連資料 定時株主総会の報告事項、決議事項、報告書、プレゼンテーション資料などを掲載しています。	
▶ パーゼルの関連資料 自己資本比率の構成など、自己資本に関する情報を掲載しています。	▶ 電子公告 公告をお知らせします。		



統合報告書・ディスクロージャー誌

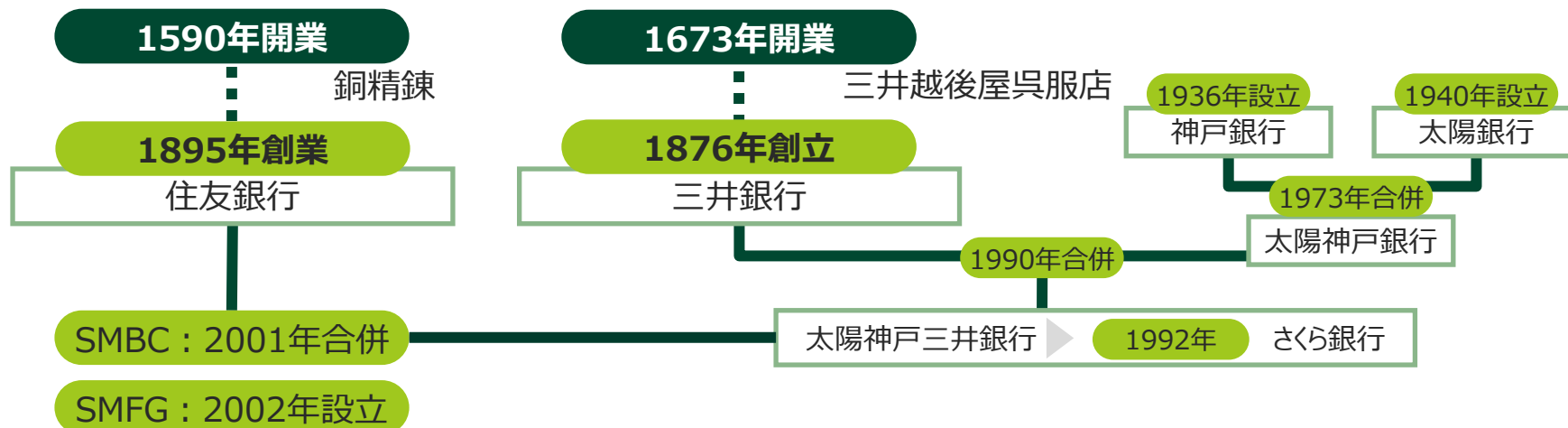
▶ 統合報告書・ディスクロージャー誌 **SMBCグループの取組をより詳しくご説明しています**

2018年（平成30年）3月期

年度版	▶ 統合報告書 ディスクロージャー誌 本編 (5,598KB) ▶ ディスクロージャー誌 資料編 (4,684KB)	▶ 分割
中間期版	▶ 一括 (4,009KB)	▶ 分割

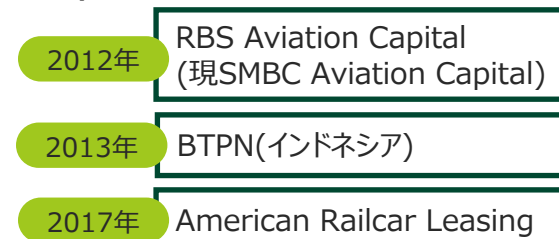
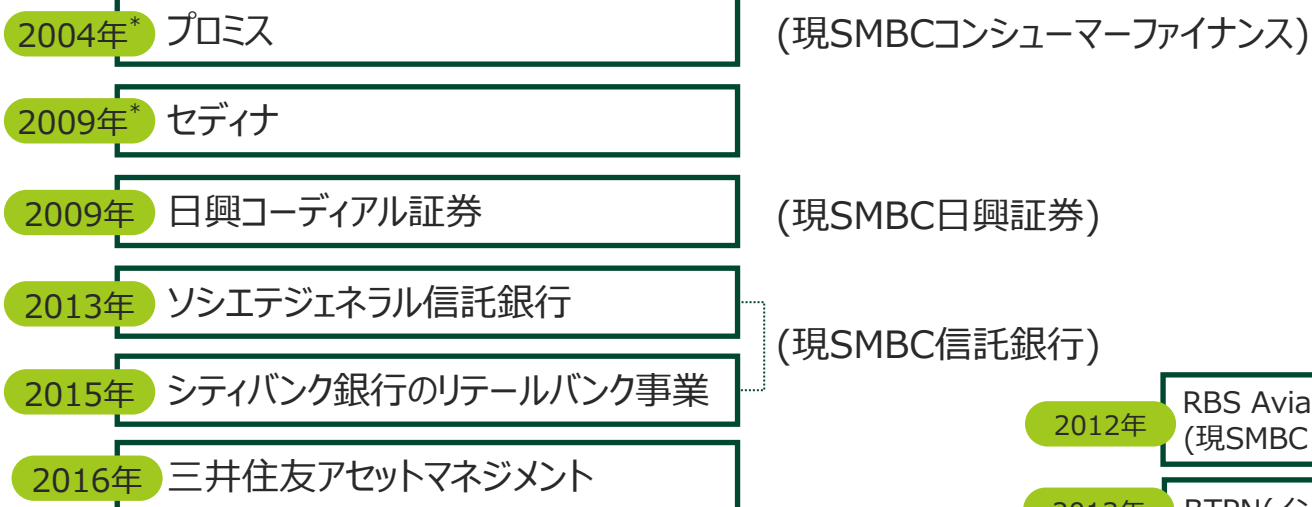
ご参考資料

SMBCグループの沿革



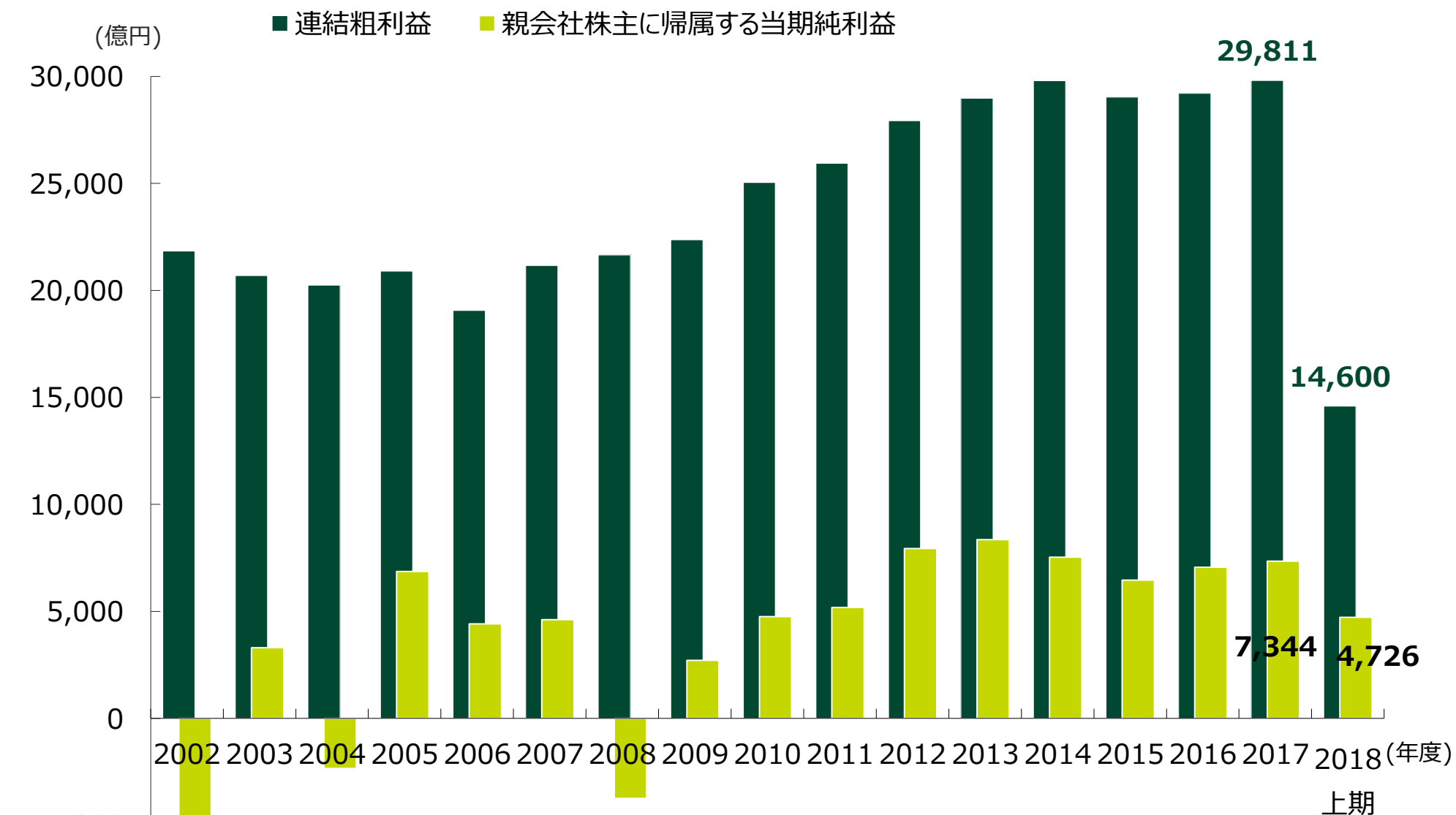
三井住友フィナンシャルグループ／三井住友銀行

《主な連結子会社化・事業取得》



* 初回出資時。プロミスは2012年、セディナは2011年に完全子会社化

業績推移



▲ 5,000

決算の概要

連結P/L

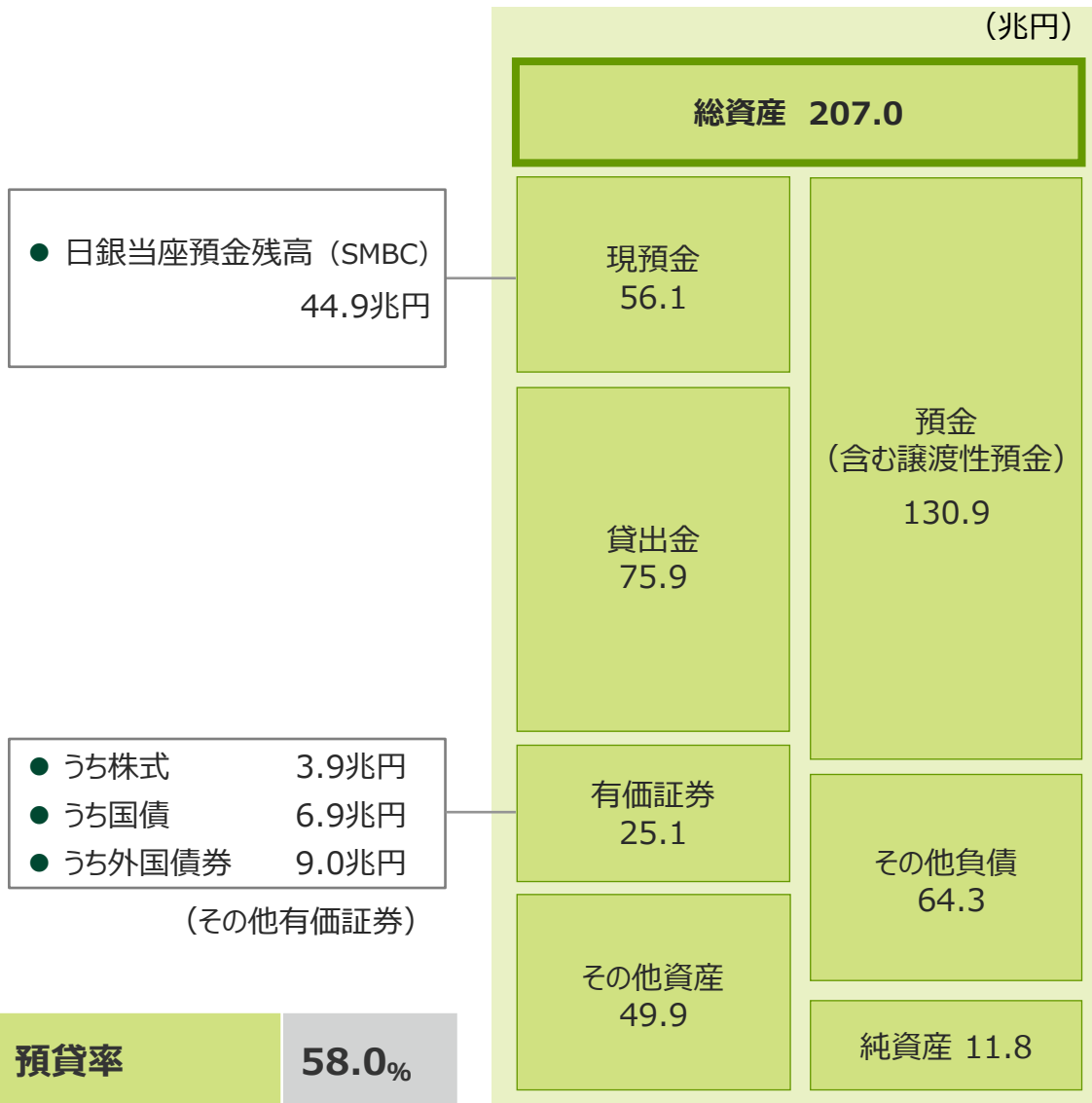
(億円)		17年度 実績	18年度 目標	上期実績	前年 同期比
1	連結粗利益	29,811	—	14,600	▲58
2	営業経費	▲18,162	—	▲8,525	△421
3	持分法投資損益	390	—	330	+28
4	連結業務純益*1	12,038	11,800	6,404	+391
5	与信関係費用	▲942	▲1,300	▲50	△291
6	株式等損益	1,189	—	519	+5
7	その他	▲645	—	▲71	▲40
8	経常利益	11,641	11,200	6,802	+647
9	親会社株主純利益	7,344	7,000	4,726	+525

主要グループ会社の親会社株主純利益寄与

(億円)	17年度 実績
三井住友銀行	5,770
SMBC日興証券*2	619
三井住友ファイナンス&リース	327
SMBCコンシューマーファイナンス	246
三井住友カード	187
三井住友アセットマネジメント	36
セディナ	24
SMBC信託銀行	▲58

■ バランスシート・1株あたり情報

連結B/S (2018/9月末)



1株あたり情報

	18年度 上期	前年比	18年度 目標
当期純利益	337.70円	+39.76円	501.58円
配当	85円	+5円	170円

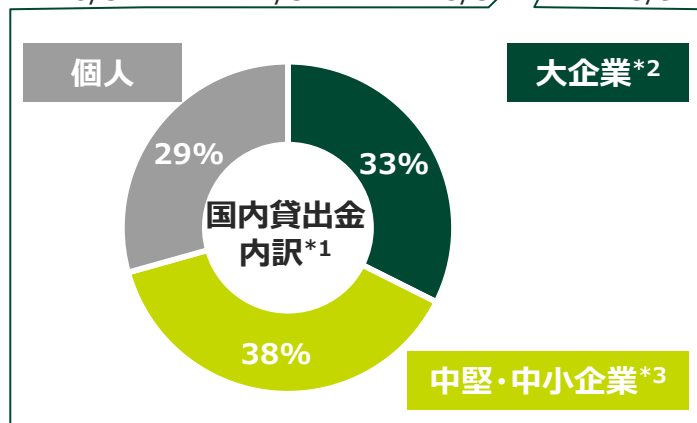
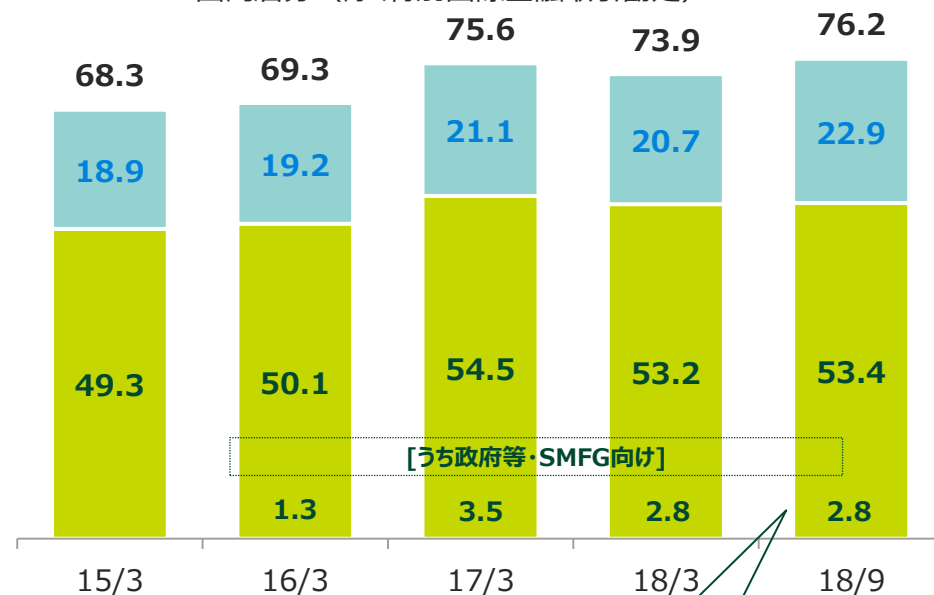
	18/9月末	18/3月末比
純資産	7,638.73円	+272.52円

貸出金

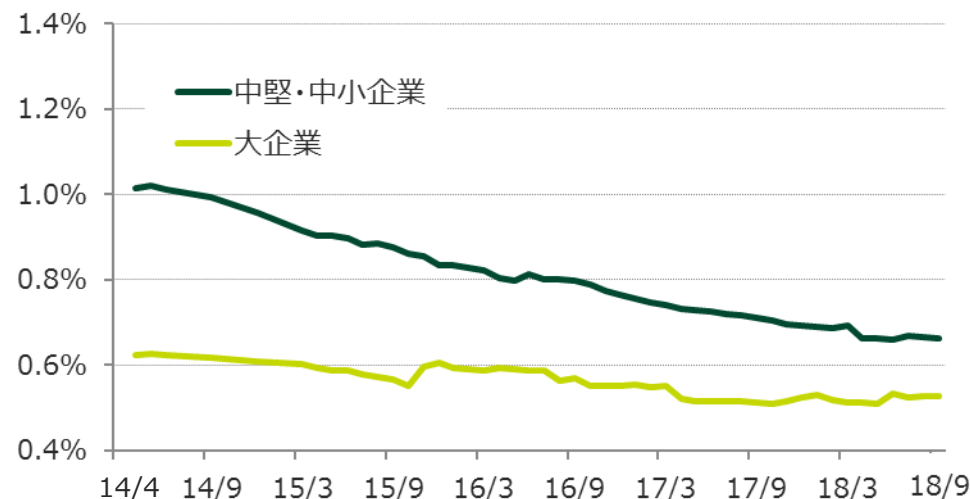
貸出金残高 (SMBC単体)

(兆円)

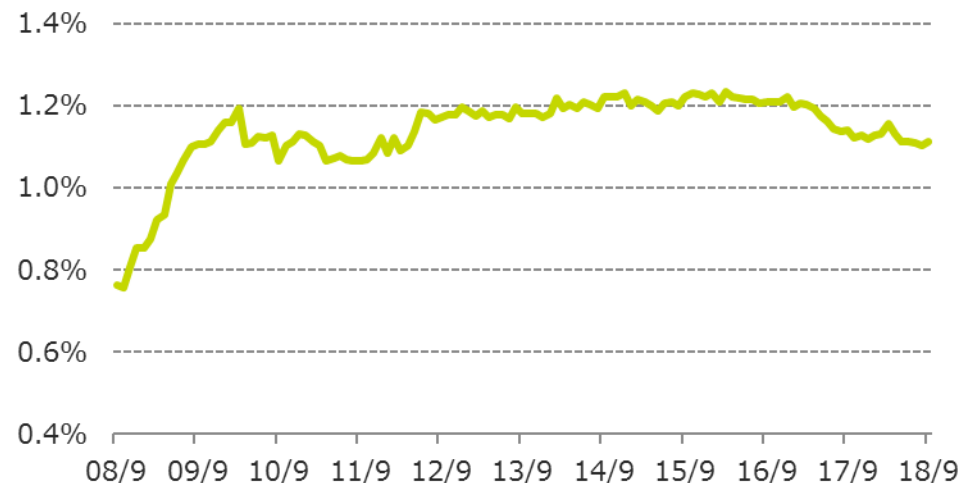
- 海外店分及び特別国際金融取引勘定分
- 国内店分 (除く特別国際金融取引勘定)



国内法人向け貸出金スプレッド (SMBC単体) *1,4



海外貸出金スプレッド (SMBC単体) *1,5



外部からの評価

	SMFG		SMBC	
	(長期)	(短期)	(長期)	(短期)
Moody's	A1	P-1	A1	P-1
S&P	A-	—	A	A-1
Fitch	A	F1	A	F1
格付投資情報センター (R&I)	A+	—	AA-	a-1+
日本格付研究所 (JCR)	AA-	—	AA	J-1+

SRI（社会的責任投資）インデックスへの組入れ

GPIFが選定したESG指数（総合型）

■ FTSE Blossom Japan Index

日本株の時価総額上位500銘柄の中から、各業種の中でESG格付けが相対的に高い銘柄を選別して構成する指数



FTSE Blossom Japan

■ MSCI Japan ESG Select Leaders Index

米国のMSCI（モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル）社がESGの観点から高評価の企業を構成銘柄とする指数



2018 Constituent
MSCI Japan ESG
Select Leaders Index

■ FTSE4Good Global 100 Index

英国の金融紙フィナンシャル・タイムズとロンドン証券取引所の共同出資会社であるFTSEインターナショナルが作成した指数



FTSE4Good

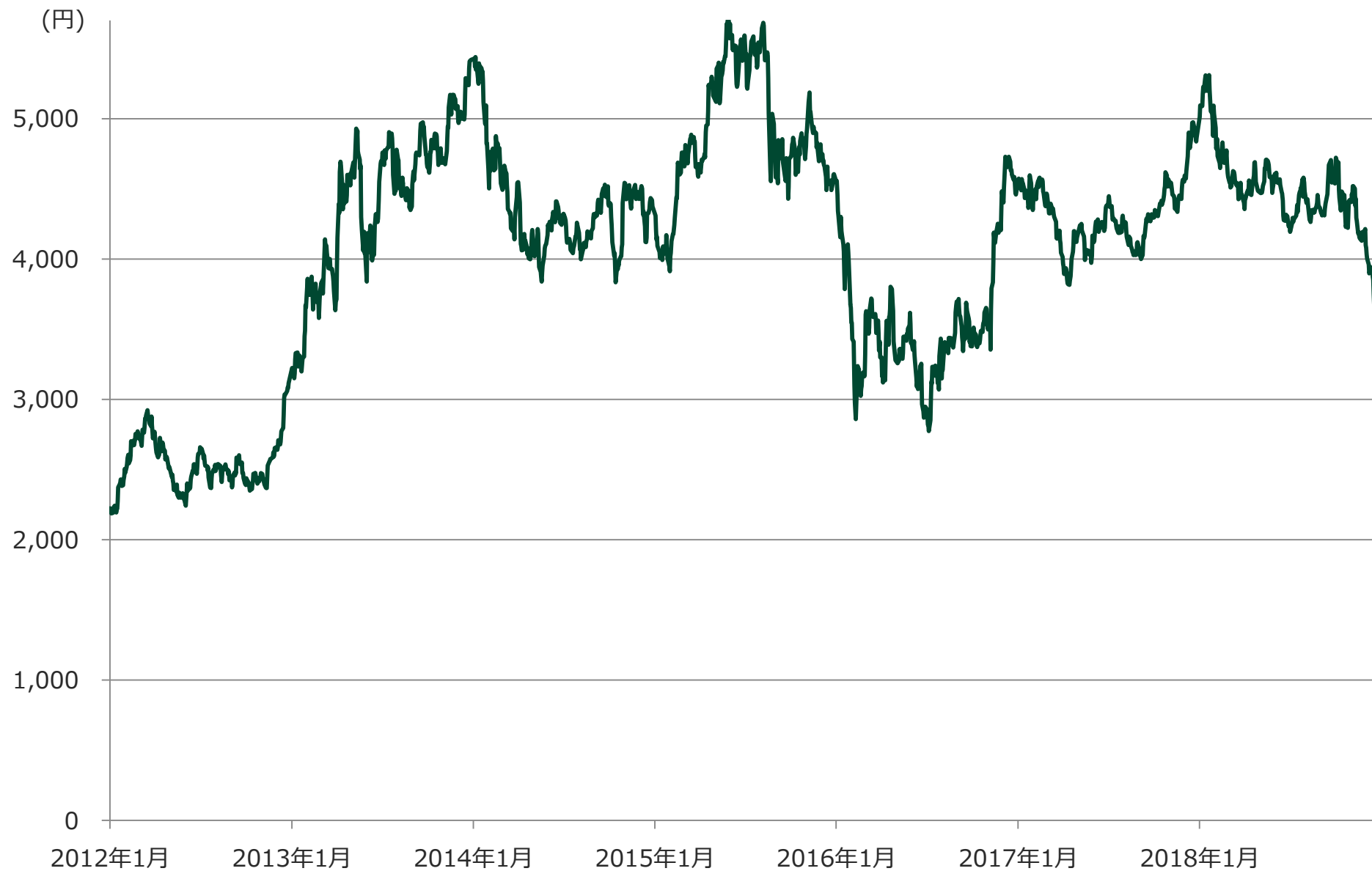
■ SNAMサステナビリティ・インデックス

損保ジャパン日本興亜アセットマネジメントによるESG運用指数



Member of SNAM
Sustainability Index
2018

株価推移





三井住友フィナンシャルグループ



本資料には、当社グループの財政状態及び経営成績に関する当社グループ及びグループ各社経営陣の見解、判断または現在の予想に基づく、「将来の業績に関する記述」が含まれております。多くの場合、この記述には、「予想」、「予測」、「期待」、「意図」、「計画」、「可能性」やこれらの類義語が含まれますが、この限りではありません。また、これらの記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものであり、実際の業績は、本資料に含まれるもしくは、含まれるとみなされる「将来の業績に関する記述」で示されたものと異なる可能性があります。実際の業績に影響を与えうるリスクや不確実性としては、以下のようなものがあります。国内外の経済金融環境の悪化、保有株式に係るリスク、不良債権残高及び与信関係費用の増加、当社グループのビジネス戦略が奏功しないリスク、合併事業・提携・出資・買収及び経営統合が奏功しないリスク、海外における業務拡大が奏功しないリスクなどです。こうしたリスク及び不確実性に照らし、本資料公表日現在における「将来の業績に関する記述」を過度に信頼すべきではありません。当社グループは、いかなる「将来の業績に関する記述」について、更新や改訂をする義務を負いません。当社グループの財政状態及び経営成績や投資者の投資判断に重要な影響を及ぼす可能性がある事項については、本資料のほか、有価証券報告書等の本邦開示書類や、当社が米国証券取引委員会に提出したForm 20-F等の米国開示書類、当社グループが公表いたしました各種開示資料のうち、最新のものを参照ください。